



絵画コンクールの表彰式(右)とダム通路のギャラリー(左)

七月二十日(祝)、安室ダム周辺で第八回安室ダムまつりが開催されました。当日は夏休みの初日に当たり、好天の下、会場には親子づれなどたくさんの方々を訪れました。開会式では、絵画コンクールの表彰式が行われ、優秀作十人が表彰されました。なお、絵画コンクールに応募された全作品は、安室ダム内部の最下部にある通路に展示されており、クイズラリー参加者などの目を楽しませていました。メイン会場では、恒例のラムネ早飲みゲーム、スイカ割りゲーム、アユつかみゲームなどを楽しむ子どもたちの歓声がこだましていました。また、会場の

隣では、大勢の参加者を集め船坂地区内交流のゲートボール大会も行われていました。本宮湖(ダム湖)で開催された湖上カヌー教室(小・中学生)と湖上巡視体験も例年好評ですが、今年も初心者から、毎年欠かさず参加している人まで様々な方々が参加されました。湖の上を吹く風に心地良さを感じながら、水上でのひとときを楽しんでいました。



「うまいもんでしょ！」カヌー教室



ノーネクタイで窓口で対応する職員

上郡町役場では、省エネルギーや経費節減に配慮し、館内温度を二十八度に設定の上、ノーネクタイで業務を行っています。これは、資源エネルギー庁からのよびかけで、全国的に県庁、役場など公的機関において取り組んでいるものです。ある調査によると、冷房の設定温度を一度上げ、暖房の設定温度を一度下げて運転すれば、年間の消費電力は約一〇パーセント節減できるといわれています。また、ネクタイをはずすと二度ほど涼しく感じられます。夏場の省エネルギーの推進のために、あなたの職場でも取り組んでみてはいかがでしょうか。

### エコスタイルでさわやか業務

や一人ぐらしの方等への声かけ訪問を続けられ、理事、副班長、班長と要職を歴任されました。また、地域の老人会や幼稚園とも積極的に交流会を開催し、交流を通してそれぞれの思いを活動の中に反映されるよう努力されました。このたびの受賞は、これらの功績がたたえられたものです。現在も鞍居地区は、森中御幸鞍居地区婦人会会長を中心とし



表彰を受けた宮本さん

て、愛育班活動の推進に積極的に取り組んでいます。

### 健康で明るい暮らしを願って 宮本弘子さんが兵庫県愛育連合会長表彰受賞

七月十四日(金)、柏原町の丹波の森公苑で兵庫県内の愛育班活動の関係者が集まる「ひょうご愛育の集い」が開催され、その席上で前鞍居地区婦人会会長の宮本弘子さんが兵庫県愛育連合会長表彰を受けられました。

愛育班活動とは、地域の健康維持とふれあいを深めることを目的とした、いわゆる隣近所の声かけ運動組織です。宮本さんは、上郡町内で唯一愛育班が設けられている鞍居地区で、結成当初から高齢者世帯

七月十六日(日)中央公民館で、東京から来町した「劇団ポプラ」の本格的ミュージカル「シンドバットの大冒険」の公演が「かみごおり町民文化劇場」として実施されました。出演者が繰り広げる歌や踊りをまじえた冒険劇や、木製の大きな船など本格的なセットに、会場をうめつくした家族づれは魅了されていました。劇のエンディングでは、出演者全員が舞台上に並ぶ中、観客から花束の贈呈があり、最後の歌にあわせて叩かれる手拍子は、やがて感動の拍手に変わりました。



会場を魅了した舞台の一場面

### 夢と冒険の舞台を鑑賞 本格的ミュージカル「シンドバットの大冒険」

### 親子で一緒に焼き物づくり

#### サマースクール「陶芸教室」

七月二十三日(日)つばき会館で、サマースクールの「陶芸教室」が開催され、十二組二十七名の親子が参加しました。



親子でいっしょに取り組みました

教室は、老木の陶芸クラブの方々の指導で進められました。参加者は粘土での基本的な制作方法を教えてもらった後、早速制作に取りかかりました。花瓶や貯金箱など、実用的なものから置物風の作品までさまざまな作品を親子で協力しながら制作していました。ろくろの前に、親子で真剣なまなざしを取り組む様子は、とてもほほ笑ましいものがあり、夏休みの思い出の一ページとなったことでしょう。

### 歴史と文化にふれあうひととき

#### 宝林寺門前遺跡発掘調査説明会

七月二十二日(土)河野原集落南端の宝林寺門前遺跡で現地説明会がありました。当日は、真夏の太陽が照りつける中、考古学ファンや、地元の方々など百名を超える人たちが、説明会に訪れました。

説明によると、宝林寺門前遺跡は、河野原地区の圃場整備事業に先立つ発掘調査によって発見されたもので、十四〜十六世紀前半、宝林寺を取り囲んでいた屋敷群の遺構だそうです。遺物としては、新聞にも取り



職員の話に聞き入る皆さん

は、播磨国(はりまのくに)の禪文化の中心として栄えていた様子が、うかがわれる。また、白旗城とこの遺跡の間には赤松館などの赤松氏ゆかりの旧跡がほぼ一直線上に並び、ことから、赤松氏が白旗城と宝林寺を両極とした都市計画の

ようなものを考慮しながら本拠地として赤松を整備していったことが想像される」という町社会教育課の調査担当職員の説明に参加者は興味深そうに聞き入っていました。